

身近なところでもいいことたくさん
校区社会福祉協議会の福祉活動
 — ふれあい・いきいきサロン —

「ふれあい・いきいきサロン」活動とは、身近な地域の住民が運営し、仲間づくり・健康の維持増進・生きがいづくりを目指した活動です。
 市内には、サロンと呼ばれる『集いの場』が200か所以上あります。
 今回は、西国分校区と高良内校区のサロンの取組みを紹介します。

国分サロン

西国分校区には、7か所のサロンがあり、国分サロンは家主の方の御好意による空家を利用したサロンです。

市内では珍しい取組みとなつています。
 平成17年オープン後、毎



国分サロン

月開かれ近所の高齢者の皆さんが交流しています。

この日は、特殊詐欺の話聞き、その後ボランティア作りのお弁当をみんなでいただきました。

また久留米大学の学生4人もサロンを訪問するなど、歌やおしゃべりで楽しいひとときを過ごしました(写真)。

「コミュニティセンターまでは、遠くへ行けないけれど、近所歩いて行ける距離なので自分で参加できます。いつもとても楽しみにしています。手芸などすることもあります。こうやっておしゃべりできるのがなによりです。」と参加者の笑顔が印象的でした。

高良内第1町内サロン

高良内校区には、7つの

町内ごとにサロンがあります。それぞれ年2回以上サロン活動を行っています。この第1町内サロンは第1町内公民館を利用し、町内の住民が集まり、有意義な時間を過ごしています。このサロンでは、男女問わず多くの方が参加しており、それぞれが自分たちの役割をもち、活発な活動を行っているサロンです。



高良内第1町内サロン

この日は、市社会福祉協議会が育成している「サロンサポーター」の講師4名を招いてのレクリエーションや健康運動と、ボランティア作りでの心のこもった弁当を参加者全員でいただきました。

市社会福祉協議会では、児童・生徒及び教職員や保護者を対象に、福祉体験学習の支援をしています。

6月9日(火)、南薫小学校の児童70名が、国土交通省九州地方整備局研修所(高野1丁目)にあるバリアフリー比較体験施設で高齢者疑似体験や車いす、ア

**南薫小
福祉体験学習**
 児童がバリアフリー比較体験

イマスク等を使用して身体障害者や介助者の体験をしました。

子どもたちは、疑似体験を通じ、日常生活の大変さと道路空間のバリアフリー化の大切さを感じていました。

今回の体験が、子どもたちにとって「相手の立場に

なつて考え、そして相手のために実践する」きっかけになることを願っています。



アイマスク・白杖による視覚障害者と介助者の体験



高齢者疑似体験